

子ども読書活動の推進について大いに語り合う

～子どもたちのためにより良い教育環境を目指して～

令和6年7月8日（月）、令和6年度木曽岬町総合教育会議が開催されました。本会議は、町長と教育委員会が本町の教育課題を共有し、課題解決に向けて意思疎通を図るとともに、教育施策を推進していくため毎年実施しているものです。

今年は、小中学校長、こども園長、青少年育成町民会議会長にも出席いただき、子どもたちの読書離れの現状や課題、大人も含めた読書習慣の定着について伺いながら、第四次木曽岬町子ども読書活動推進計画を受けた取り組みを充実させるために、町や教育委員会、学校、家庭、地域で今後どのようなことができるのかについて意見を交わしました。会議で出された意見の一部を紹介します。



◎ 読書を子どもたちに求めるのは大変な時代！

- ・子どもに「本を読みなさい」と言っても難しいところがある。なかなか本を読まない子どもには、漫画から勧めたらどうか。字数の多い文章的な漫画だったら、読書につながるのではないかな。
- ・親御さんも子どもと一緒に読書する時間をつくる。また、親御さんが子どもに読ませたい本を勧める時には、まず自分自身が読んで、感想などを話しながら勧められると良いと思う。
- ・自分は読書が楽しかったから、学生時代に本をめちゃくちゃ読んでいた。今は読書以外に、スマートフォンやゲームなど楽しいことがたくさんあるので、読書を子どもたちに求めるのは大変な時代だと思う。

◎ 読書って、教育のもっと前にあるものじゃないの？

- ・子どもたちは、本の表紙を見て面白そうだなと判断して本を選びがちなので、本の内容を知っていて、面白く読み聞かせをしてくださる先生から本を勧めてもらおうと良いと思う。
- ・読み聞かせを通じて「絵のない本」と出会い、全巻読破した子どももあり、その変容には驚いた。
- ・読書はやっぱり、楽しくないとダメではないか。教育としてももちろん必要だろうけど、読書って教育じゃなくて、教育のもっと前にあるものじゃないかと思う。
- ・読書が大好きな子はさておき、全ての子どもに読書を求めるには、やはり何か策がいると思う。

◎ 子どもも大人も読書のきっかけを！

- ・子どもたちは、読書登山や読書手帳の取り組みや、木曽岬こども未来塾の学習会の実施など、町立図書館に来る機会があるので、大人も町立図書館に気軽に立ち寄るきっかけづくりとして、新聞や週刊誌の配置を、入り口近くににするなどの工夫を検討してみてもどうか。
- ・総合教育会議に臨むにあたり、「明日の自分が確実に変わる10分間読書」（吉田裕子著）を町立図書館で手に取ってみた。世の中、「読書かスマホか」二者択一という風潮があるが、それぞれ目的が違うので、「読書もスマホも」であるという記述が印象に残った。じっくり物事を考えるには読書が必要だと思う。
- ・読書が面白かった、楽しかったという経験は、人間にとって非常に心地良いはずなので、やらせ続けるしかない。年齢は小さければ小さいほど良く、こども園など、教育の前の習慣づけが大切だと思う。
- ・「読書の日」をつくるなど、活字に触れる機会を、町全体で大人も巻き込んで取り組んではどうか。



町長からは、「子どもの読書離れが非常に進んでしまったと痛感していたが、園・学校の取り組みの様子を聞き少し安堵した。それぞれが読書環境づくりに努力し、児童生徒自ら取り組んでいただいていることを聞き、私自身うれしかった。読書を子どもたちに求める前に、まず、大人である自分たちが、親御さんが或いは先生たちが自ら読書の機会を作っていくことが大事であると感じた。」との話がありました。

教育委員会では、本会議の内容を踏まえて今後の施策を検討し、町長部局と協議しながら子ども読書活動の推進に努め、町の未来を担う子どもたち一人ひとりの成長を支援していきたいと考えております。

読書の秋。町民の皆さまも、子どもたちと一緒に本を手にとってみませんか。